https://www.isico.or.jp | December.2021 | vol.119

Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization　新産業創出のための総合的支援情報誌

ISICO PRESS

P.02　巻頭特集

夢の実現を目指し、8 人の起業家が事業計画をプレゼン

スタートアップビジネスプランコンテストいしかわ 2021

P.06　サキドリ

農事組合法人 One

P.8 スポットライト

金田 美裕さん（ME:YOU 店主）

P.10　イシコのトリセツ

経験値活用型サポート人材交流会

P.12

イシコ・トピックス

8 人の起業家が事業プランを競った「スタートアップビジネスプランコンテストいしかわ 2021」。詳しくは巻頭特集をご覧ください。
表紙撮影／黒川博司

巻頭特集

夢の実現を目指し、8人の起業家が事業計画をプレゼン

スタートアップビジネスプランコンテストいしかわ2021

ISICOは10月27日、県地場産業振興センターで「スタートアップビジネスプランコンテストいしかわ2021」を開催した。将来有望な起業家を発掘するコンテストは今年で15回目。当日は過去最多の344件の応募の中から、ファイナリスト8人が事業計画を発表し、アイ・オー・データ機器の細野昭雄会長をはじめ県内外の経営者らが審査した。今回の巻頭特集では事前の書類審査で決定した地域活性化賞を含め、各賞受賞者の提案内容を紹介する。

最優秀起業家賞

新開発の乳酸菌サプリで認知症の改善、予防へ

只野 武／Tラボ

最大500万円のスタートアップ補助金が交付される最優秀起業家賞に輝いた只野さんは、認知症の改善や予防に効果が期待されるサプリメントについて発表した。

高齢化社会の到来により、認知症にかかる人の数は年々増加しているが、世界中を見渡しても認知症に効く医薬品の開発は進んでいない。この難題を解決しようと、只野さんが開発したのが、新たな乳酸菌と糖成分を組み合わせたサプリメント「まるちぺーすと」だ。

このサプリメントは腸や口腔内で脳機能を低下させる悪玉菌を抑制し、善玉菌を増やすのが特長だ。只野さんが高齢者施設で治験をした結果、軽度の認知症を患う高齢者が摂取すると6カ月後にほぼ正常な状態まで回復し、中等度からやや高度の状態でも正常値近くまで認知機能が改善した。現在、有効性を客観的に評価してもらうため、金沢大学と東京歯科大学で治験に取り組んでいる。

既に国内の医療機関などで販売しており、今後は台湾やベトナムのほか、アメリカでの販売も視野に入れている。只野さんは「健康長寿と医療費削減に貢献したい」と意気込み、2030年に10億円の売り上げを目標に掲げている。

優秀起業家賞

バイオ技術で雑草からメタン 道の駅を防災拠点に

馬場 保徳／石川県立大学発ベンチャー

馬場さんは雑草や農業残さから都市ガスの主成分であるメタンを生成するシステムを開発した。従来のメタン発酵システムではこれらの植物系原料を分解できなかったが、牛の胃の中で牧草を分解している微生物を用いることで発酵を可能にした。平常時はもちろん、災害でライフラインが途絶えた際でも周辺にある雑草から調理や発電に利用できるメタンを作れることから、防災拠点としての役割が期待される道の駅への設置を目指している。

優秀起業家賞／未来賞

編み物を用いた3Dプリンター 物体をアップデート可能に

廣瀬 悠一／Solidknit

廣瀬さんは編み地を積層させ、中身の詰まった立体物を作る「ソリッド編み」を独自に考案した。編み物なので、例えば椅子の形に編んだものをほどいて机として編み直すことが可能だ。ソリッド編みを自動化する機械や適した糸の開発を前進させるため、静岡から繊維産地の石川に移住。まずはものづくりが好きな人向けに製作キットを販売して技術を普及、発展させ、「最終的には物体をソフトウェアのようにアップデートできるようにしたい」と意気込む。

START UP
BUSSINESS PLAN CONTEST

女性起業家賞

アーティストが手作りする カスタマイズイヤホン

佐藤 怜／（株）EBRU

金沢美大卒の佐藤さんはデザイン、音質、フィット感をカスタマイズできるイヤホン「EARMIND（イヤーマインド）」をD2C※で製造販売する。デザイン部はアーティストが一つずつ手作りしたものだ。アーティストを支援するため事業化した。金沢にフラッグシップショップを開設する構想で、今後はデザイン部を着せ替えられるタイプや補聴器の開発、海外展開も視野に入れる。※ダイレクト・トゥ・コンシューマーの略

地域活性化賞

能登産素材を使ったジン 本場イギリスで蒸留

松田 行正／NTG

東京から珠洲に移住した松田さんは、能登のユズやカヤの実、クロモジ、月桂樹を使った蒸留酒「のとジン」を商品化した。松田さんがこれらの原料を仕入れて一次加工し、ジンの本場イギリスの蒸留所が製造を手掛ける。爽やかな味と香りが特徴だ。国内のほか、蒸留所を通じてイギリスでも販売する。将来的には珠洲に蒸留所を開設するビジョンを描いている。

英語だけの環境で保育 世界へ羽ばたく人材を

勅使河原 梨沙／はくさん英語塾

金沢市内で英語塾を経営する勅使河原さんは、英語でコミュニケーションを取る保育園「インターナショナルプリスクール」を県内で初めて開設するプランを発表した。好きなことに打ち込める自由時間をふんだんに設けたり、環境問題や地域の課題を英語で学ぶ時間を設けたりして、英語力はもちろん、自ら考え行動する力を伸ばし、世界へ羽ばたく人材を育成する。

ファイナリストと発表テーマ

中川 宏／（株）喜こころ

ICTを活用して、顧客が在宅で人とペットの医療用医薬品等を入手できる薬局の開設

永井 菜緒／（株）SWAY DESIGN

不要な建物の条件整理と以後の活用提案を行う空き家のコンサルタント事業「賛否、解体」

宮川 昌也／RCS（株）

業界初!オンライン診察から処方薬の宅配までワンストップ完結のアプリサイト運営

高志保 博孝／（株）スマートホテルソリューションズ

AIを活用して宿泊施設運営の省力化や観光客の地域受け入れを行うためのソリューションを提供

受賞者のその後にフォーカス！

ISICOでは2007年から毎年、ビジネスプランコンテストを開催し、優秀な起業家の成長をサポートしている。厳しい審査を勝ち抜いた起業家がその後どのように成長したのか。2011年度のコンテストで優秀起業家賞に選ばれたウインズジャパンの片岡匡史社長の取り組みを紹介する。

㈱ウインズジャパン

植物由来の新素材を使った ヘルメットの開発に挑戦

売上高は創業時の約3倍に

二輪レーサーとしても活動する片岡匡史社長は、ユーザー目線を取り入れたバイク用品を開発しようと2009年にウインズジャパンを設立した。その後、日差しを遮るインナーバイザー付きのヘルメットやあごを保護するフェイスガードをワンタッチで脱着できるヘルメットを日本で初めて開発し、ヒットさせた。

追随してくる他社に差を付けるため、2012年には炭素繊維強化樹脂（CFRP）で作ったヘルメットを発売。従来に比べて250g以上も軽量化し、新たなユーザーの獲得につなげた。2019年に市場に投入したガラス繊維強化樹脂（GFRP）製のモデルも強さと軽さを維持しながらCFRP製よりもリーズナブルな価格を実現し、人気を集めている。

ヘルメットのシールドの内側に貼り付け、寒い時期や雨天時の曇りを防ぐシートも好評だ。

今年は劇場版の公開を記念して、人気アニメ『エヴァンゲリオン』とコラボしたヘルメットを企画。直売分を2日で完売するなど話題となり、ブランドイメージと認知度のアップにつながった。

こうした革新的な商品開発が実を結び、業績はほぼ右肩上がりで伸び、売上高は創業時の約3倍にまで達している。

金沢工大が開発に協力

そんな片岡社長が現在、力を入れているのがセルロースナノファイバー（CNF）を使ったヘルメットの開発である。CNFとは木材から取り出したナノサイズの繊維状物質のこと。鉄と比べ、5分の1の軽さと5倍の強度を誇り、植物由来の環境への負荷が少ない

人気アニメ『エヴァンゲリオン』のキャラクターをイメージしたカラーリングを施した限定モデル。2日間で直売分が完売するなど話題を呼んだ。

写真左）外殻部にセルロースナノファイバーだけを使用したヘルメットの試作品。

写真右）軽くて強く、環境に優しいセルロースナノファイバーを使ったヘルメットの商品化を目指す片岡匡史社長（左）と金沢工業大の附木貴行講師。

次世代素材として注目されている。

CNFの活用を思い立った理由について、片岡社長は次のように話す。

「多くの人はヘルメットを3年に1回、あるいは5年に1回のサイクルで買い換えます。不要になったヘルメットは燃えないごみとして埋め立て処分されますが、これでは地中に残ってしまいますから、メーカーとしてもっと環境に優しいものを作れないかと考えていました。そんなとき、ニュースでCNFのことを知り、興味を持ったのです」。

CNFに詳しい専門家を探して片岡社長が相談したのがISICOだった。ISICOでは複合材料を研究し、環境省のプロジェクトで車のボンネットなどをCNFで製作した実績もある金沢工業大学バイオ･化学部応用化学科の吉村治教授と附木（つけぎ）貴行講師を紹介。2019年からウインズジャパンと金沢工大、大手繊維メーカーの3者による研究開発がスタートした。

試作品のテスト結果は上々

CNFはナノサイズなので目に見えない大きさの物質だ。これをヘルメットとして成型するのは困難の連続だったが、試行錯誤の末にこの夏、待望の試作品ができ上がった。

「まずCNFを複雑に重ね合わせて紙のようにした上で、細長いテープのように裁断します。これにより をかけて作った糸を織物にします。織物に樹脂を含浸させた後、カットしてヘルメットの金型に貼り、熱と圧力をかけて固めます」。製造方法についてこう解説してくれたのはウインズジャパンの石川哲治技術部長だ。

CNFは高価なため、試作品ではマイクロサイズの繊維も混ぜて使用した。また、日本の厳しい安全規格をクリアするため、GFRPを含む多層構造とした。テストの結果は予想以上で、耐貫通性は既に規格を満たし、耐衝撃吸収性もあと一歩のところまで迫った。

将来は他社への素材提供も

今後はCNF製織物の織り方や素材の積層構成について引き続き研究を進め、3～5年後の商品化を目指す。現段階ではGFRPも用いているため、次のステップではCNFだけで作ったヘルメットの開発に取り組む予定だ。

これがゴールではない。片岡社長は「将来的にはヘルメットの製造時に必要となるプリプレグ（CNFの織物に樹脂を含ませたシート状の素材）を国内外のメーカーにも供給したい」と話し、CNFの普及と環境への負荷低減に一役買う姿勢を見せる。

附木講師は「大手企業と連携するよりも素早く商品化できるのが魅力。CNFをプリプレグとして供給できれば、例えば自転車のフレームなど、応用展開の可能性が大きく広がります」と期待を寄せる。

片岡社長が以前から進出を狙うヨーロッパ市場では環境対策への関心がひときわ高い。CNF製ヘルメットの完成が、同社のさらなる成長に向け、大きなターニングポイントとなるに違いない。

（株）ウインズジャパン
金沢市横川3-20　TEL. 076-259-6560

代表者	片岡 匡史
設立	2009年2月
資本金	500万円
従業員数	30名
事業内容	バイク関連グッズの企画･開発･販売、コンチネンタルモーターサイクルタイヤの販売、ホテル経営

https://www.wins-japan.com

SAKIDORI
サキドリ

すりおろしたレンコンを キューブ状の冷凍食品に。便利で食べやすいと好評

「冷凍すりおろしれんこんキューブ」〈12個入り／764円（税込み）〉。ポタージュや蒸しパンなどさまざまな料理に活用できる。

金沢市才田町で水稲やレンコンを生産するOneは今年3月、レンコンをすりおろしてキューブ状に成型した冷凍食品を発売した。調理の手間が省けて便利と好評で、「プレミアム石川ブランド製品」への認定を弾みに、県外へも販路を広げていく計画だ。

面倒な作業は不要 好きな量だけすぐに

Oneが開発した商品はその名も「冷凍すりおろしれんこんキューブ」。同社が土づくりにこだわり、農薬や化学肥料を使わずに育てた「金澤美人れんこん」をすりおろし、キューブ状に凍らせた商品だ。添加物は一切使用していない。

面倒なすりおろしや裏ごしの作業がいらず、忙しいときでもすぐに使える上、小分けされていて、使いたいときに好きな量だけ使える点が特長だ。レンコンの旬は秋から冬にかけてだが、長期保存が可能なため、季節を問わず手軽に食べられる。

同社が制作に協力した映画「種まく旅人～華蓮（はす）のかがやき～」の公開に合わせ、今年3月27日、野々市市にぎわいの里ののいちカミーノで開催した「れんこんFES」でお披露目した後、同社サイトのほか、むつぼしマーケットやカジマートで販売を開始。「食べやすくて便利」「生と同じようにおいしい」「いつもの料理に入れるだけで栄養バランスがよくなる」など好評を得ており、売れ行きは好調だ。

今年9月には県が新規性や独自性に優れた製品の販路開拓などを支援する「プレミアム石川ブランド製品」に認定された。

農事組合法人 One

金沢市才田町乙4番地
TEL. 076-255-1581

代表者	宮野 一	事業内容	水稲、レンコン、ニンニク、ジャガイモの生産・販売
設　立	2013年2月		
資本金	120万円		
従業員数	8名		

https://www.one2013.com

事前調査により食中毒菌のリスクを解消

金沢でははす蒸しやすり流し汁など、レンコンをすりおろして調理する文化がある。しかし、いざ作るとなるとひと苦労だ。同社の社員がスーパーなど店頭に立っていると、消費者から「あんちゃん、すりおろしたレンコンないがかいね」と声を掛けられることもあった。

こうした声を受け、同社の宮野義隆副代表はおよそ10年前からすりおろしたレンコンを商品化するアイデアを温めていた。しかし、レンコンの加工品には土壌中のボツリヌス菌が付着し、食中毒を引き起こすリスクがある。そのため、開発には二の足を踏んでいた。

そんな宮野副代表が今回、開発に向けて舵を切った背景には「レンコンの消費量は減少傾向にあり、このままでは食べてもらえなくなるのでは」という危機感があった。

商品化のためには菌のリスクを何としても解消しなければならない。そこで、宮野副代表はISICOに相談し、チャレンジファンドの事前調査事業を活用して、さまざまな条件で菌数を調査した。

その結果、収穫後に冷蔵保存し、加工業者において皮をむいた後、食品の殺菌に使用される電解水につけ込み、すりおろせば菌による汚染を防止できることが明らかになり、商品化へのアクセルを踏んだ。

女性モニターの声をパッケージに反映

開発時には再びチャレンジファンドの支援を受け、ニーズ調査にも取り組んだ。主な購入者として想定する30代から50代の女性にモニターを依頼し、商品の形や大きさ、価格、パッケージなどについて率直な意見を寄せてもらい、開発時の参考にした。

例えば、「生産者が伝えたいレンコンの特長よりも、消費者が知りたい便利さを訴えた方がいい」という意見もその一つだ。そのためパッケージでは、キューブ状になっていることが分かるよう商品を手でつまんだデザインを採用した。

また、家事代行を手がける女性に、すりおろしたレンコンを使ったレシピを考案してもらった。商品を紹介する同社サイトでは、れんこんキューブが離乳食としても安心して使えることが紹介されているが、これも意見を取り入れたものだ。

「中小企業はなかなかこうしたことにお金を掛けられないので、とても助かりました。今後は不要という意見の多かったトレーをなくせるよう、工程を見直したいと思います」（宮野副代表）。

フリーズドライ化でさらに流通しやすく

れんこんキューブは年間3万パックを目標に県内外で販路を拡大する方針だ。販促に向け、レシピコンテストの開催も視野に入れる。

加工品の開発はこれにとどまらない。送料が高くつく冷凍品のデメリットを解消しようと、現在、試験を行っているのがすりおろしたレンコンのフリーズドライ化である。最終的にはお湯を掛けるだけですり流し汁を食べられるようにするのが目標だ。

レンコンは栄養が豊富でアンチエイジングや美容にも効果があるとされている。金沢には母乳の出がよくなるよう、母親にすり流し汁を食べさせる風習も残る。地域の食文化を継承すると同時に、もっとレンコンを食べてもらえる機会を増やすため、宮野副代表らの挑戦が続く。

1 蓮の花や実から作ったアロマオイルなども試作し、レンコンの新たな可能性を追求する宮野義隆副代表。

2 レンコンの収穫作業。一本ずつ丁寧に泥から掘り出したレンコンは太くて肉厚で粘りが強い。

3 今年3月にののいちカミーノで開催した「れんこんFES」。れんこんキューブをお披露目し、試食品も提供した。

SPOT LIGHT
スポットライト

新旧が調和する金沢に魅了され移住 昭和レトロなアパートでブティック経営

学生時代から「いつかは自分のお店を」と夢を描いていた金田美裕さん。東京から金沢へ移住し、2020年2月に婦人服のセレクトショップ「ME:YOU」をオープンした。開店以降、着実にリピーターを増やす金田さんがたどってきた軌跡と現在地とは。

新たな魅力を引き出す服や着こなしを提案

ME:YOUは金沢市中心部のせせらぎ通りから歩いて3分、路地裏にたたずむ昭和の趣たっぷりのアパートの一室にある。秋らしいコーディネートを身にまとったマネキンが出迎えてくれる玄関を入ると、二つの大きな窓から陽光が差し込む10畳ほどのスペースにアウターやボトムス、アクセサリーなどがきれいに陳列されている。どれも最新のファッションに見えるが、金田さんが手間暇かけてリペアした古着も多い。

「わたしとあなたをお店のテーマにしています。お店とお客様の出会い、お客様とお洋服の出会い、今日までの自分とこれからの自分との出会いなど、わたしとあなたの素敵な出会いを提供したいと思っています」と話す金田さん。好みや要望に応えて服や着こなしを提案し、女性客が自身の新たな魅力に気付いて喜んでくれたときが、一番やりがいを感じる瞬間だ。

観光で訪れたその日に移住と起業を決断

金田さんがファッションに興味を持ったのは中学生の頃。高校に入り、アルバイト代を手にアパレルショップや古着店を巡るうち、「私もこんなふうに人をワクワクさせられたら。いつかは自分のお店を開きたい」と夢を膨らませるようになっていった。

高校卒業後は、全国展開するカジュアルブランドなどに勤め、販売はもちろん、店舗の立ち上げや商品企画、国内外での古着の買い付けと、さまざまな経験を積んだ。転機となったのは、夢の実現に向けて準備を始めようと考えていた2018年に、友人と金沢を旅行したことだった。

「新旧の建物、文化が入り交じった雰囲気や街のコンパクト感、自然が身近にあるところにひかれ、ここで起業しようと決めました。お店を開くなら、古着も新しい服も売っていて、古着でも今っぽい着こなしを提案したいという私の考えともぴったり合うと思いました」。

「思い立ったら行動しないと気が済まないタイプ」と自己分析する金田さんは、帰りの新幹線で早速、金沢への移住や起業に関する情報を検索。東京に戻った後、いしかわ就職・定住総合サポートセンター（ILAC）が開催する説明会に参加した。この際、起業をサポートする機関として紹介されたのがISICOで、担当者のアドバイスを参考に、何度も東京と金沢を行き来しながら開店準備を進めた。

開店直後は好調もコロナ禍で急ブレーキ

ISICOの支援の中で最も力になったのが事業計画書の作成指導だった。これによって漠然と抱いていたイメージが具体化し、経営をより現実的に捉えられるようになった。開店資金の融資を受ける際には、店舗の立地や地縁のなさを不安視する金融機関の声を綿密な事業計画書と熱い思いで跳ね返した。

念願だったME:YOUをオープンしたのは2020年2月である。2、3月は計画の2倍を売り上げ、順調なスタートを切った。集客に力を発揮したのはSNSだ。外国人観光客が足を運んでくれるなど、近隣のホテルやショップに置かせてもらったフライヤーも奏功した。入居するアパートでは、ほぼ同時期にスー

接客時は女性客のニーズを踏まえ、これまでの経験や磨いてきたセンスを生かして提案する。

プ店やエステ店がオープンし、メディアで取り上げられたことも追い風となった。

しかし、4月に入ると状況は一変、新型コロナの感染拡大により客足がぱったりと途絶えた。アパレルショップは行政からの支援金の対象にもならず、苦しい経営が続いた。金田さんは当時について「まったくの闇。しんどかったですが、金沢の先輩起業家やISICOの担当者などの励ましが心の支えになりました」と振り返る。

ME:YOU店主
金田美裕さん

1992年、大阪府出身。中学生の頃にファッションの楽しさに目覚める。高校を卒業後、大手アパレル企業に入社、同社で最も売り上げの多い、新宿店などで店長を務め、商品企画にも携わる。24歳で別のアパレル企業に転職し、海外での古着の買い付けなどを担当する。2020年に金沢に移住し、2月に27歳で「ME:YOU」をオープンする。

おしゃれだけでなく暮らしにもフォーカスを

その後、コロナに翻弄されつつも経営は持ち直している。もちろん、店を成長軌道に乗せるには課題もある。その一つは、開店前にメインターゲットと考えていた30代女性の来店が思ったよりも伸びないことだ。金田さんがその原因と考えているのが、東京と地方の30代のライフスタイルや価値観の違いだ。

「こちらの30代は既婚者が多く、子育て中の人も大勢います。住まいは郊外にあって、移動には車を使います。そういった女性にリーチできるよう情報発信や品ぞろえを工夫したいと思います」。

また、物を大切に使う意識の高まりやコロナ禍を契機に家で過ごす時間が増えたことを受け、洋服の収納に使うかごや手入れするためのブラシを販売するなど、暮らしにフォーカスを当てた商品展開を視野に入れたいという。

新天地でチャレンジを続ける金田さんにエールを送りたい。

古いアパートをリノベーションした店内には、品のあるカジュアルスタイルの商品が並ぶ。

SHOP INFO

ME:YOU（ミユウ）

金沢市長町1丁目4-34 すみれハウス 2号室
TEL.076-222-3909

営業時間　12:00 ～ 18:00
定 休 日　水曜（ほか不定休あり）

https://btqmeyou.theshop.jp

／使って役立つ／
イシコのトリセツ

経験値活用型サポート人材交流会

社内で解決できない経営課題に知識豊富な専門人材の活用を

ISICOと中部経済産業局は2019年度から、経営課題を抱える中小企業と経験豊富で専門的な知識やノウハウを持つ人材を結び付ける「経験値活用型サポート人材交流会」を開催しています。3回目となる今年10月5日には11社が参加し、専門人材との個別面談に臨みました。

過去2回は計24社が参加 8社が専門人材と契約

経験値活用型サポート人材交流会は、社内のリソースだけでは解決が難しい経営課題に悩む中小企業とその課題を解決に導く県内外の専門人材をマッチングする事業です。

ISICOでは申し込みのあった中小企業から経営課題を聞き取り、ニーズに応じた専門人材を1社あたり3～5人選定し、個別面談の場を設けます。専門人材の選定には約1,000人が登録する（一社）中部産業連盟（名古屋市）のデータベースを活用しています。

個別面談は専門人材1人につき25分間です。すべての人材と面談後、これはと思う人がいれば、双方で支援方法や報酬などの条件を取り決め、契約を結びます。

過去2回では計24社が参加し、このうち8社が専門人材の支援を受けました。中部経済産業局管内では石川県の参加企業数が最多となっています。

参加企業の多くが 商品開発や販路開拓に悩み

10月5日に県地場産業振興センターで開いた交流会では、ものづくり企業など県内に事業所を構える11社が12テーマで参加し、県内外から集まった23人の専門人材と個別に面談しました。

中小企業が抱える経営課題は多岐にわたります。中でも多いのは「IoTを活用した製品を開発したいがセキュリティに関する知見がなく、対策を指導してほしい」「新商品をECサイトで販売したいがノウハウがない」といった商品開発や販路開拓に関する悩みです。

ISICOの担当者は「社内の人材だけで対応が難しい課題の解決には、専門人材の知識やノウハウの活用が有効です。交流会は来年度も開催を予定しているので、ぜひ多くの企業に参加してほしい」と呼び掛けています。

【お問い合わせ】
ISICOコンサルティング事業部 経営支援課　TEL.076-267-1244

中小企業の支援ニーズにぴったりの専門人材をマッチングする交流会。

共和キカイ幹部による会議風景。現状の問題点を付箋に書き出し、改善策を検討する。

Users Voice

的確なアドバイスを得て足踏みしていた改善が前進

木材加工機を製造する共和キカイは昨年10月の「経験値活用型サポート人材交流会」に参加しました。交流会に参加したきっかけやその後の成果について今村亜喜博社長に聞きました。

他地域の人材とのマッチングに期待

当社は木材加工機を受注生産しています。お客様のニーズに沿って設計・製造するわけですが、想定以上に原価がかさみ、見積もり時の見込みよりも利益が薄くなってしまうケースが多かったため、専門人材の手を借りて改善できればと思い、交流会に参加しました。

名古屋から招いたコンサルタントのおかげで改善が進んだという話を取引先から聞いていたこともきっかけの一つです。県内に限らず他地域の優秀な専門人材を紹介してもらえることに期待していました。

交流会では5人の人材と面談し、その中から、クレーンメーカーに長年勤めていた愛知県のコンサルタントと契約を結びました。現在は月に一回の指導を受けながら問題点を洗い出し、改善を進めています。

例えば、見積もり時に見落としがちな項目をリスト化してチェックするようにしたほか、労務費も厳密に計算し直し、外注費の値下げ交渉にも取り組みました。まだまだ改善の余地は大きいのですが、以前よりもしっかりと利益を確保できるようになってきたと手応えを感じています。

伴走者として幅広く助言

私たちのような中小企業は目の前の仕事をこなすことに精一杯です。分かってはいても、改善にまではなかなか手が回りません。交流会への参加を通じて、豊富な経験を持った人材が伴走者として寄り添ってくれて、的確なアドバイスを得られるようになったことで、これまで足踏みしていた改善が着実に進んでいるように思います。

当初、課題として考えていた利益の確保はもちろん、今では営業や設計、製造、人材育成と幅広い分野で課題の整理や対策が進んでいます。専門人材の客観的な視点が入ったおかげで、社員の意識、特に幹部の意識改革が進んだことも成果の一つと言えます。

当社は昨年、過去最高の売り上げを記録しました。ウッドショックを契機に国産材のニーズが上向いており、私たちにとっては追い風が吹いている状況です。ビジネスチャンスをしっかりと捉えて、会社を成長させていくため、そして、海外展開の夢を実現するため、専門人材には引き続き、指導をお願いしたいと思っています。

「経験値活用型サポート人材交流会」を通じてマッチングした外部人材の協力を得て、課題の解決に取り組む今村亜喜博社長。

(株)共和キカイ

河北郡津幡町旭山19番地
TEL.076-288-5677

代表者　今村 亜喜博
設　立　1988年5月
資本金　1,000万円
従業員数　21名
事業内容　木材加工機械・製材機械・各種省力機械の製造、販売

http://www.kyowa-str.co.jp

TOPICS

先輩女性起業家に聞く！

「いしかわ起業小町小規模座談会」開催

ISICOでは起業に興味のある女性や起業して間もない女性を対象に、先輩女性起業家の話を気軽に聞ける小規模座談会を9月から開催しています。今年度はポップアップショップと同時開催でNigiwai Space新保屋（金沢市安江町）を会場に、これまでに3回開催しました。

当日は先輩起業家が起業したきっかけや苦労したことを話したり、経験から得たノウハウなどを伝授したりしました。

参加者からは「すごく身近で分かりやすい」「実際に先輩起業家と話せる良い機会になった」などの声があり、非常に好評でした。

IT企業の販路拡大をサポート

「CEATEC 2021 ONLINE」に出展

ISICOは10月19日～22日にアジア最大級の規模を誇るIT技術とエレクトロニクスの国際展示会である「CEATEC 2021 ONLINE」に県内企業2社と出展しました。

コロナ禍の影響で昨年度からオンライン開催となり、開催日以降もアーカイブで出展内容を確認できる仕様となりました。出展企業は動画などを用いて自社製品や技術、サービスなどを紹介していました。

老舗旅館の承継後の改革について学ぶ

「事業承継セミナー」開催

ISICOは10月19日に神奈川県鶴巻温泉の老舗旅館・元湯陣屋女将の宮崎知子氏を講師に招き、「IT活用による旅館改革とその挑戦―事業継承に有効的な活用法―」と題した事業承継セミナーを行いました。

宮崎氏は存続の危機に瀕していた旅館を承継後、IT化することで業務の効率化を図り、従業員の意識改革などのさまざまな改善・改革を実施し、大きく業績を伸ばすことに成功しました。当日はその成功の裏にある改善・改革や苦労話などを紹介し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

編集後記

今回の巻頭は毎年恒例のスタートアップビジネスプランコンテストを特集しました。コンテストも今年で15回目となり、応募数は過去最高の300件超えとなりました。今年は健康管理や防災拠点、空き家など、いわゆる社会課題を解決するビジネスプランが多い印象を受けました。一昨年、私が情報誌の担当について初めてのコンテストではデジタル技術関係のビジネスプランが多く、その時も編集後記に時代を感じると書いたのですが、今回も、新型コロナの感染拡大が社会的な課題について再考するきっかけになったり、SDGsの機運が高まっていたりといった背景があってのこのラインアップなのかなと思いました。毎年の傾向を見てみるのも面白いですね。（M）

公式 Facebook をご覧ください。

今年度よりISICOフェイスブックで取材企業の簡単な紹介をしております。よろしければ皆様「いいね！」をお願いいたします。

https://www.facebook.com/isico.dgnet

※今号の誌面制作に当たっては、マスクの着用など感染症対策を行った上で取材いたしました。取材対象者には、撮影時のみマスクを外していただき、その際も取材スタッフとの距離に十分配慮いたしました。

公益財団法人
石川県
産業創出支援機構 ISICO
Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

お問い合わせ
TEL. 076-267-1001
FAX. 076-268-4911
MAIL. info@isico.or.jp

〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目20番地
石川県地場産業振興センター新館
https://www.isico.or.jp/

［発行月］2021年12月（年6回発行）［編集協力］ライターハウス／金沢市問屋町1-75［印刷所］㈱ 橋本確文堂／金沢市増泉4-10-10

本文には見やすいユニバーサルデザインフォントを使用しています。